



# 参画だより

NO. 25  
2005. 12. 16  
弘前市民参画センター

男女共同参画推進活動講座公開講座

「視点を変えて話してみよう」…人前で話す男女共同参画…」

このほど弘前市民参画センターで、青森テレビアナウンサーの川口浩一さんを講師に迎え、上手なプレゼンテーションの方法を学ぶ講座が開かれました。多くの市民が会場に足を運び、下準備の重要性や、広く視点を持つことの必要性を学びました。



「人前で話すためには地道な努力が不可欠」と話す川口さん

10月15日、弘前市主催、NPO法人青森県男女共同参画研究所企画・運営による公開講座が開かれました。男女共同参画の視点で地域活動をするためのノウハウを学ぶ公開講座3回目となる今回の講師は、ベテランアナウンサーの川口浩一さん。人前で上手に話すための方法について、ニュース制作の裏話や、男女共同参画の視点に立ったメディアの読み解き方などを例にとりながら、わかりやすく解説してくれました。

## 資料集めは人念に

川口さんは、自分の伝えたいことを上手に伝えるためのポイントとして、言いたいことを整理すること、伝える情報を絞り込み、裏づけをとること、自分の考えをはっきりと持つことが必要だと語ります。

特に川口さんが普段から気をつけているのは、集めた資料を何回でも確認すること。それを怠ると、生放送の現場では取り返しのつかない事態も起こりうるためです。また、生じた疑問はそのままにしておかず、必ずすぐに確認。思いついたことや印象に残ったことを書きとめることも欠かせない作業のひとつ。日々の暮らしがすでに情報収集につながっています。「関係する事柄を調べに調べつくすのが川口流」ところには本番で活かしきれないこともあるが、集めた情報は、自分の

「前後左右上下斜め裏返し、ときには鳥の目虫の目魚の目」ってなに？



プロのアナウンサーの話し方に聞き入る参加者

なかで肥料となり、言葉の端々に余裕としてにじみ出てくるのだと思います」と川口さんは胸を張ります。

## ときには別の角度から

もうひとつ重要なことは、自分と違う考え方への理解。「前後左右上下斜め裏返し、ときには鳥の目虫の目魚の目」という言葉を引用し、普段常識だと思っていることでも、別な見方をすれば全く違う事実が見えてくる例を身近な話題から説明。「目的に向かってある一点を振り下げていくのも良いが、それでは偏った見方しかできない。自分のスタンスを持ちつつ、多角的にまんべんなく物事

を見る、という姿勢を身につけてほしい。自分中心の価値観で物事を判断するのは大切だが、あらゆる角度から見つめて判断材料を豊富なものにしてこそ、話に自信がみなぎって説得力が出る」と言葉に力を込めました。

## 効果的な「起承転結」

最後に、効果的な話の組み立て方を紹介。起承転結の「起」で問題提起をし、「承」で話を発展。「転」で別の角度からの話を挿入し、世界を一挙に広げ、「結」でそれまでの話の統一性を聞き手に納得させて結論づける、というものです。

川口さんは男女共同参画の視点からポスターや刊行物などさまざまなメディアを見たとき、どのように読み解くことができるかを解説しながら、起承転結のつけ方を実演。

「マスコミの現場も女性の視点が当たり前の時代。だが未だにメディアの中には性別への気遣いを欠くものもある。男女共同参画は、女性の側からの動きが多いように見えるが、角度を変えてみると、男性が楽になるための取り組みともいえる。その意味でも、男性・女性双方の視点で語られていくことが必要」と結びました。

# 「日本一の弘前公園で」

造園技能士 福士よし子



菊人形づくりは大変だけど、キレイと言ってくれるのがとてもうれしい



もみじと菊人形まつりの準備、草木の剪定、草刈り、肥料やり、菊人形づくり、雪囲い、園内清掃、そのほかにもいろいろ仕事で毎日忙しい忙しいと過ぎます。日本一の桜の公園、弘前公園の中で、季節と追いかけてこをしているような気分です。最近、熊の店近くの金次郎さんにも冬衣を着せましたよ。

## 福士さんにインタビュー

「この仕事をして何年？  
13年目になるかしら」

なぜ造園技能士の資格を取ったのですか？

「風土に根ざした伝統の技に憧れ



～草木や石などによるオブジェの大作～  
書の展示会場や講演会などの雰囲気づくりに協力しました

「でも、難しかった」

樹木の雪吊りの上に王冠みたいなものがありませんか？

「三つ編みを使った手の込んだ頭飾りです。弘前公園の統一規格です」

「仕事の裏話をお聞かせください」

「桜の肥料やりで、たくさんの穴をあけるのですが、昔のお金(寛永通宝)が出てきます」

「いつお会いしても、にこやかに微笑みながら、話をしてくださる福士さん。弘前市が以前開催した女性のためのエンパワーメント事業「きらめき女性塾」の卒業生で、今年度は、男女共同参画推進活動講座にも参加しています。自然の中で体を使って仕事をし、余暇の時間を利用してさまざまな関心事に励むなど、その朗らかさと一生懸命がんばる姿は、津軽のおかあさんをイメージさせるような、温かい方でした。」

造園技能士とは、庭園の施工法や庭木の選定など、造園に関する厚生労働省認定の国家資格です。緑に包まれた環境を創作し、守り、育てるために必要な知識や技術が造園技能であり、その技術をマスターしたスペシャリストです。

私が子どもの頃は、近くに最勝院五重塔や南塘グラウンドがあって自然がいっぱいでした。それなのに、日々の暮らしに追われる中で、いつの間にか四季折々の感覚をどこかへ置き忘れていた自分に気づいたのは、弘前公園で仕事をすることになってからでした。道端やアスファルトの割れ目に咲く可憐な草花、凜として咲くひたむきな生命力。今の仕事は体力を使うけれど、緑のエネルギーをたくさんいただいているのだと思うようになりました。

そんな弘前公園の新年の仕事は文化財の清掃です。天守を除き、辰巳櫓、丑寅櫓、未申櫓、南内門、東内門、追手門、東門、亀甲門と



桜。日本人の心を魅きつけてやまない花、桜。雪が溶けていっせいに咲き揃う美しさは格別ですが、弘前公園では、まだまだ雪深い二月に、剪定作業が始まります。淡墨絵のような世界の中、樹上で風雪に揺れる桜の枝を、雪に埋もれながら、低木類の剪定をします。今年1月の雪の深さには驚きました。やっぱり地球は傷ついているのかなと思わずにいられません。松の枝も雪にやられて後始末が本当に大変でした。切り取った形の良い枝は残しておき、秋のもみじと菊人形まつりで飾り、紅葉深まる散策コースにもう一役の出番となりました。雪燈ろうまつり、さくらまつり、

# 第2回「弘前市民参画センター交流まつり」

～あるよ！ 新しい発見 仲間をつくらう 交流のかけ橋！～

市民参画センター  
開館5周年記



実施委員手作りの玄関かざり

10月29日(土)、「市民参画センター交流まつり」が開催されました。当日は、朝からあいにくの雨にもかかわらず多くの人が訪れ、会場の市民参画センターは終始にぎやかな声に包まれました。

交流まつりは、今年の2月に続き2回目の開催です。今回のテーマは、「あるよ！ 新しい発見 仲間をつくらう 交流のかけ橋！」。日ごろセンターを利用して実施委員会をつくり、自分たちの活動のPRやグループ同士のネットワークづくりができる場にしよと、数カ月をかけて念入りに準備を重ねてきました。そのかいもあり、さまざまな企画は各団体の特色がいかに

れた、バラエティーに富んだものとなりました。

市民参画センター開館5周年記念も兼ねて開かれた今回の交流まつり。琴と小鼓による祝いの曲の邦楽演奏で幕を開けた後、2階ふれあいホールと3階のイベントスペースでは地球温暖化について考えるビデオの上映や、男女共同参画をテーマにした人形劇の上演、「地域から家庭から男女共同参画」と題した鶴賀茂世さん(県男女共同参画推進委員)の記念講演、金融学習グループ「碧い空」主催の悪徳商法への対処についての講演、リコーダー演奏、弘前友の会によるくらしについての講演、アムネスティ・弘前グループによるビデオ上映など多彩なイベントがおこなわれ、来場者からは感心する声があがり、ときには笑い声が響きました。

また、今年度の弘前市主催事



若い夫婦の生活に、姑も近所も疑問だらけ  
「男が洗濯干して、めくせじゃよ」って????



リコーダーお目覚め部の合奏  
「G線上のアリア」は天下一品

業である男女共同参画推進活動講座受講生による実践企画も行われ、職場での妊婦の動きづらさを体験してもらった妊婦もあつてみようや、日常の夫婦の会話にみられる「男はこうあるべき、女はこうあるべき」といった固定的な性別役割分担意識を、川柳を交えたコント仕立てでわかりやすく描き出す「ジェンダーってなあに」で、受講生の活動の成果が披露されました。

3階には、各団体の活動内容を紹介します。展示ボードが並び、訪れた人たちは興味深そうに足



『飯支度それって女の仕事なの?』  
私だって忙しいんだよ。手伝ってえ!



「妊婦ってなんぼ大変だば～」

まつり終了後に開かれた交流会では、参加団体や来場者が今後の活動に生かそうと意欲的に情報交換をして、互いに親交を深める姿がみられました。

を止めて見入っていました。ひろさき環境パートナーシップ(HEP)21エコクラブでは、展示のほかにメンバーの小学生が酸性雨測定実験をおこない、注目を集めていました。社会福祉施設やグリーンツーリズムの活動をしている団体は、自分たちでつくったビーズ細工やしおりなどの工芸品、りんご、野菜などの農産物を販売し、活動をアピールするとともに、買い物客との会話を楽しんでいました。



「悪徳商法はこんな感じで近づきます」  
迫力の実演なのになぜか大爆笑

(弘前市民参画センター利用団体紹介)

### 《保育サポーターサークル パピークラブ》 「寄り添う人がひとりでもいれば」

私たちパピークラブは、(財)21世紀職業財団の「保育サポーター養成講座」を修了した有志の集まりです。子育て中の親が、子育てをしながら仕事や社会参加の両立ができるように援助・支援する事を目的に、平成11年2月にサークルを立ちあげました。現在11人のメンバーで活動しています。

活動内容は、子どもが急に病気になっても仕事が休めない時やお母さんの通院や美容院へ行きたい時などの一時預かり、学童保育や塾への送迎、また講演会やコンサート・結婚式等開催時の集団保育などです。

さらにメンバーの資格や専門性を活かし、栄養相談や手作りおもちゃ教室の講師として出向したり活動の場を広げています。それに加えて最近では、障がい児の依頼が増えてきているため、それらに対応できるように当グループが主体となり行政や医療機関と連携し研修会を開き、知識向上に努めています。

今後は、親の育児不安に耳を傾け、安心できる子育ての“伴走者”として活動していきたいと思えます。



みがあるか、今年から楽し  
円。今年から楽し  
トマ(一皿100  
の店先で売られていた  
す。去年の発見は靴屋  
っこう楽しいもので  
るものも違ってきた  
が変わるだけでも、見  
を通過していても、速  
歩きだつたり。同じ道  
よつて自転車だつたり  
す。秋から冬は天気に  
なら40分弱の距離で  
自転車20分弱、徒歩  
自宅から職場まで、

編集後記

## 本の紹介

著書名

『記憶が消えていく』



著者 一関開治  
発行 二見書房

「できなくなることを  
嘆くよりも、  
できることを喜びたい」

平成十五年、現職の町長を、「若年性アルツハイマー病」が突然襲った。五十三歳という若さで、その病気と向き合うことになった一関開治さんの不安や戸惑い、妻や子への想いを綴った本である。

「若年性アルツハイマー病」は働き盛りの人が発症するという意味において、経済的破綻につながることもあるし、将来の生活設計が壊れてしまうこともあるが、それにも増して残酷なことは「記憶が消えていくことだ」という。

「記憶が消えていく」というのは衝撃的なフレーズだった。愛する人たち、思い出、これまで培ってきた自分の知識や経験が、自分の中からだんだんと欠落していくことを考えるとやりきれない。

翌年一月、「若年性アルツハイマー病」であることをカミングアウト(公表)して、町長を辞任、現在の症状は中期の段階だという。病気をカミングアウトすることについては、ずいぶん迷ったようだが、そうしたことで、町の人たちは一関さん夫婦を暖かく支えてくれたという。

今年に入ってから、身の回りのこと、たとえば着替えや、風呂に入るときの行為が難しくなってきたという。症状が進んでいくことは、本人は十分自覚している。アルツハイマーという事実を冷静に受け止め、受容する。「なってしまったことはしょうがない」という本人の言葉があるが、そこには壮絶な困難があったことも確かだろう。

一関夫婦の会話が綴られている。妻の佳代さんは、先のことを考えてあれこれ悩むよりも、今の時間を大切にしたいと繰り返す。「できなくなることを嘆くよりも、できることを喜びたい」と。二人であの日微笑んだ記憶も、二人であの日泣いた記憶も、サラサラと消えたとしても、喜びや悲しみや楽しみを感じたその心までは決して消えることはない信じている。

アルツハイマー病への認識がまだまだ不十分な現在、ぜひ読んでみたい一冊である。

## お知らせ

弘前市男女共同参画推進活動講座公開講座を開催  
日時 平成18年1月28日(土)14時~15時40分  
内容

- 1. 受講生活動報告 発表会(14時~14時40分)
- 2. 講評・講演「学びを实践に生かすために」(14時40分~15時40分)

講師 佐藤三三教授(弘前大学教育学部長)

場所 弘前市民参画センター 3階  
入場料 無料 託児室 準備します(要申込)  
問合せ 男女共同参画室 0172-31-2500  
(弘前市民参画センター内)



## 弘前市民参画センター 編集 メディア部会

〒036-8355  
弘前市元寺町1-13  
Tel 0172-31-2500 Fax 0172-36-1822  
開館時間 9:00~22:00  
休館日 12月28日~1月3日